

群馬県立伊勢崎特別支援学校 学校評価一覧表②（平成31年度版）

（様式2）

羅 針 盤			関係する部署	達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合		
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	○学校からのおたよりや連絡帳等から「学校の様子がよく分かる」と80%以上の保護者が答えている。	小学部主事 中学部主事 事務部	A	A	A	○児童生徒の生活の様子について、ささいなことも連絡帳や電話、保護者送迎時等で丁寧に伝え、アンケートでは、およそ87%の評価を得た。	○引き続き、児童生徒の生活の様子についてよく観察し、保護者に丁寧にかつ適時に伝えていく。 ○今後も、保護者に対して丁寧な説明、迅速な対応を心がける。
		○学校行事やPTA活動等に参加している保護者が80%以上である。	渉外部 PTA係	B	B	B	○各種会議の回数については現状で限界かと思う。しかし、保護者にアンケートを実施し、現状のPTA活動や学校行事についての意見を聞くことができた。75%+の評価だった。	○引き続き、保護者が参加しやすいように実行委員会で検討していく。 ○時間の短縮に向けて議題を精選したり、内容を事前にPTA会長や副会長と確認したりする等の取り組みをする。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○「個別の教育支援計画」について、学校と保護者との共通理解に基づいて計画を作成するために、教師が保護者の心情に寄り添う支援を行い、80%以上の保護者から有用であると評価を得ている。	学習指導部 学習指導係	A	A	A	○家庭訪問や連絡ノートでのやり取り等を通して、保護者と丁寧に情報を交換・共有することで、保護者と同じ目標で取り組むことができた。 ○第2回のアンケートでは86%の保護者から良い評価をもらうことができた。	○教師と保護者が同じ目標を目指すため、引き続き、教師が自覚を持って取り組み、保護者との丁寧な情報の交換・共有ができるようにする。 ○令和3年度、教育支援計画をキャリア教育の視点を取り入れた書式にすることに向けて、全体に情報を提供していく等準備を進める。
		○居住地校交流を実施している児童生徒の80%以上の保護者が満足している。	渉外部 交流係	B	A	A	○第2回では目標数値を達成することができた。ほとんどの児童生徒の保護者が交流に肯定的な意見だった。	○より充実した交流を実施するために、保護者との連絡や情報交換を密にしながら、引き続き、相手校との事前の打ち合わせを丁寧に行う。
Ⅱ 地域の特別支援に関するセン ター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言 援助に努めていますか。	○外部の幼児児童生徒等に対する相談を、年間200件以上受けている。	地域支援部 エリアサポート係	A	A	A	○継続して相談を受けたケースでは、児童等の変容や手立ての振り返り、見直しができた。伊勢崎保健福祉事務所のコンサルテーションが相談件数を制限したことで、本校のサポート事業を利用した園所があった。	○手立ての見直しをするおおよその時期を相談記録に明記し、事後の様子を聞き取る。伊勢崎市内の小中学校では、WISCIV等の知能検査依頼のニーズが高い。今年度は9月からで8件実施。次年度も依頼が増えることが予想される。計画を組むときに、訪問相談とのバランスを取ることが必要である。
		○地域の小中学校等への情報発信として、地域支援だよりの発行3回、授業公開2回を年間で実施している。	地域支援部 エリアサポート係	C	B	B	○情報発信については、随時発信する。	○情報発信の頻度を増やせるよう、今年度A4両面版の地域支援だよりの形式や発信方法を見直す。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○「個別の指導計画」の立案・評価について、児童生徒の実態に即した指導を実践できるよう、学年・学部での共通理解と検討を年6回行っている。	学習指導部 学習指導係	A	A	A	○「個別の指導計画」の立案・評価について、昨年度作成した「個別の指導計画の目標・手立てと評価の作成について」を使うことで、検討・共通理解が深まった。検討については計画通り6回行った。	○引き続き、検討・共通理解が深まるようポイント等を見直す。 ○前期後期制の二期制に向けて、各書類の書式変更等について、教務部と連携し、運用に向けて準備を進める。
		○自立活動の指導において、昨年度の校内研修の内容を活かし、児童生徒の実態を適切に把握し、目標や課題を明確にした授業実践を行っているとして80%以上の教員が答えている。	研修部 校内研修係	A	A	A	○いせとく版チャートを活用しながらの指導実践では、90%以上の教師からできているとの回答があり、教員の意識付けについて一定の成果を上げることができ、2学期の指導実践に生かすことができた。	○今年度の研修内容が来年度の通知表等に活用されるので、来年度の運用について、移管先の学習指導部や教務部と確認しておく。 ○研修テーマが変わることを考えて、今年度の研修内容を新転任の職員にも周知して、今年度の研修の成果が継続して生かされるようにする。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○「年間指導計画」と「個別の指導計画」との関連を反映させ、学びの連続性・関連性を意識した年間指導計画の作成や評価の見直しを年4回行っている。	学習指導部 学習指導係	B	B	B	○年間指導計画と個別の指導計画との整合性を図った。年間指導計画の作成を計画的にできるよう、年4回の作成時期と見直し時期を設定した。	○次年度も引き続き、学びの連続性・関連性を意識した年間指導計画を作成できるよう、作成スケジュールやポイント等の準備を進める。年間指導計画と個別の指導計画との整合性を図り、指導の充実につなげるようにする。
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○児童生徒の健康上の配慮や対応について学期に2回以上、面談や連絡ノート等で、保護者と情報交換を行っている。	保健部 保健係	B	B	B	○学部主事・学年主任を軸に職員の共通理解を図りながら面談や電話・連絡ノート等で、担任と保護者との情報交換を行ってきた。アンケートでは職員からの評価は+88%だったが、保護者からの評価は無回答も多く+80%だった。	○健康上配慮が必要な児童生徒について年度初めに職員に周知し、共通理解を図る。
		○嘔吐物処理方法やてんかん発作時の対応、AEDの使用方法を学期に1回点検している。	保健部 保健係	A	A	A	○嘔吐物処理方法を職員会議で周知し、てんかん発作については年度初めの現職研修でDVDを見て行った。また、救命講習を消防署で実施し、実際にAEDを使った研修を行った。	○各マニュアルの周知を年度の早い時期に行い、児童生徒の支援に活かせるようにする。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○年度の初めに、小学部と中学部に一回ずつ引き渡し訓練を行い、混乱した状況下でも確実に引き渡し方法について	安全部 防災係	A	A	A	○5月に小学部と中学部それぞれ別日に引き渡し訓練を行った。今年度は、担任以外の教員と防災係4名で車の誘導を行った。いくつか課題は残ったが、大きな滞りはなく誘導することができた。	○実際に災害が起こった時を想定し、次年度は小中学部合同で引き渡し訓練を実施する。多くの車が殺到することを想定し、校外においても、送迎車が安全に行き来できるルートを検討し、準備を行う。
		○児童生徒の首から上の怪我に対して、迅速な対応と丁寧な説明ができているとして90%以上の保護者や教職員から肯定的な評価が得られている。	保健部 保健係	B	B	B	○養護教諭、管理職、学部主事と怪我の状態を確認し、適切な対応を心掛けた。また、保護者に早い段階で連絡を取り、十分な説明を行った。職員の対応は共通理解もされてきており、評価は+90%となったが、保護者からの評価は無回答も多く+80%であった。	○怪我の防止を心掛けると共に、今後も迅速な対応と丁寧な説明を保護者に対して行っていく。必要に応じて管理職に相談すると共に全校での共通理解を図ることを次年度も継続していく。
	8 いじめのない学校作りに取り組んでいますか。	○保護者の90%以上が、学校はいじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組んでいると答えている。	生徒指導部 教育相談係	B	B	B	○2か月に1回のいじめ対策委員会で、情報を共有しながら、児童生徒のいじめの早期発見・対応・解決が図れるようにしてきた。 ○児童生徒の気持ちに寄り添い、児童生徒が落ちついて学校生活が送れるよう支援してきた。	○教職員、児童生徒および保護者に対していじめ防止対策の周知を徹底させる。
Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	○キャリア教育全体計画の改訂や、キャリア教育実践における「個別の教育支援計画」の活用のための検討会を各2回以上実施している。	進路指導部 キャリア教諭	C	A	B	○キャリア教育全体計画について、基礎的・汎用的能力を基に改訂を行うことができた。 ○キャリア教育の実践について、学習指導部と協働して2回の検討会を実施できた。個別の教育支援計画の目標をキャリア教育の能力域（基礎的・汎用的能力）を基に分析する仕組みの素案をまとめることができた。	○キャリア教育全体計画を不断に見直す仕組みを検討する。 ○キャリア教育の実践化に向けて、個別の教育支援計画で設定された目標をキャリア教育の能力域（基礎的・汎用的能力）を基に分析する仕組みについて、具体案を作成したり、全校で検討したりできるようにする。令和3年度より、新たな個別の教育支援計画が実施できるようにする。
		○外部講師による授業や研修会を年2回以上実施している。	進路指導部 キャリア教諭	A	A	A	○外部講師による職員研修では、概ね+の評価を得ることができた。 ○外部講師による進路の授業を実施し、生徒の高等部進学への気持ちを高めることができた。	○次年度の外部講師による職員研修では、相談支援事業所及び相談支援専門員についてを扱うことを検討する。 ○外部講師による授業では、中学部1・2年生を対象としたものを検討する。
	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○進路指導に関する行事を年10回以上実施している。	進路指導部 進路指導係 キャリア教諭	A	A	A	○進路指導に関する行事を12回実施した。 ○年間計画の予定外の企画として、保護者に対する障害年金セミナーを実施し、保護者の90%より+の評価を得た。	○年間行事12回の実施は適当であると考える。この範囲で、年間計画を立案する。 ○保護者へのアンケートで希望の多かった「障害のある子どもの親なきあと」や「障害福祉サービス事業所」の研修を検討する。
		○本校保護者及び地域の関係者に向けての情報発信として、「進路だより」を年10回以上発行している。	進路指導部 キャリア教諭	A	B	A	○「進路だより」の発行は8回にとどまった。 ○保護者に対して「進路だより」に関するアンケート調査を行い、ニーズを把握することができた。「進路だより」の内容として、保護者の関心の高い「障害のある子どもの親なき後」などを扱うことができた。	○「進路だより」発行の回数について、無理のない回数を検討する。 ○「進路だより」で、保護者の関心の高い「高等部の生活」や「障害福祉サービス事業所」などを扱うことを検討する。

